

1. 地域資源の特徴と課題

1.1 地域資源の特徴

本村は、山から海までの豊かな自然環境、歴史遺跡、農漁産物、文化・芸能など地域資源が豊富な地域である。これらの地域資源の特徴は、下記の分類方法をふまえ、次頁以降に整理した。

(1) 地域資源の分類

地域資源を目瀬守男(1990年)は、「地域に固定され、地域開発（広義の開発）に利用可能な資源であり、広義には自然資源、文化的資源、人工施設資源、人的資源等を含む」と定義している。

本プランでは、「地域資源」を、地域で生産、生成された「流動資源」も含め、「地域内に存在する資源であり、地域内の人間活動に利用可能な（あるいは利用されている）、有形、無形のあらゆる要素」を対象とする（以下の地域資源の分類例参照）。

固定資源 ・地域に固定されているもの ・地域内で活用、消費されるもの	地域条件	気候的条件 … 降水、光、温度、風、潮流 等
		地理的条件 … 地質、地勢、位置、陸水、海水 等
		人間的条件 … 人口の分布と構成 等
	自然資源	原生的自然資源 … 原生林、自然草地、自然護岸 等
		二次的自然資源 … 人工林、里山、農地 等
		野生生物 … 希少種、身近な生物 等
		鉱物資源 … 化石燃料、鉱物素材 等
		エネルギー資源 … 太陽光、風力 等
		水資源 … 地下水、表流水、湖沼、海洋 等
		環境総体 … 風景、環境の同化能力 等
人文資源	歴史的資源 … 遺跡、歴史的文化財、歴史的建造物、歴史的イベント、郷土出身者 等	
	社会経済的資源 … 伝統文化、芸能、民話、祭り 等	
	人工施設資源 … 構築物、構造物、家屋、市街地、街路、公園 等	
	人的資源 … 労働力、技能、技術、知的資源 等	
	情報資源 … 知恵、ノウハウ、電子情報 等	
流動資源 ・地域内で生産され、地域外でも活用、消費されるもの	物産的資源 … 農・林・水産物、同加工品、工業部品・組立製品 等	
	中間生産物（付随的資源、循環資源） … 間伐材、家畜糞尿、下草や落葉、産業廃棄物、一般廃棄物 等	

図 1.1-1 地域資源の分類（資源要素からの分類）

（出典：いちから見直そう！地域資源）

(2) 宜野座村の地域資源の特徴

本村の地域資源の特徴・評価は、以下のとおりである。

表 1.1-1 宜野座村の地域資源の特徴・評価 (1/4)

項目	地域資源の特徴・評価
①自然	<ul style="list-style-type: none"> ・本村は集落の背後を山で囲まれ、美しい海岸域を有し、山・川・海の豊かな自然を有する地域であるといえる。 ・漢那ウェーヌアタイの森（俗称：漢那ヨリアゲの森）は、貴重なアマミアラカシ群落であり学術上重要な資源である。 ・宜野座福地川と漢那福地川は、上流にダム湖を有するとともに、河口付近はマングロープ等の植生が豊かである。 ・海岸には漢那ビーチ、惣慶ミーキ浜、惣慶メヌ浜、宜野座ビーチ、松田ヒーピー浜といった美しい浜があり、アウトドアレジャーの拠点として利用可能といえる。また、宜野座村全域の浜はウミガメの上陸産卵場所になっており、景観と共に生態系面からも浜の保全が望まれる。 ・漢那ダムはダム湖の周辺整備が行われており、自然観察・レクリエーションの場として利用されている。景観、生態系の保全に取り組んだダムとしても有名で、漢那ダムまつりが毎年開催されるなど知名度も高く、地域資源としての評価は高い。 ・松田鍾乳洞は、マンガー・メーガー・ウーヌメー・イヌジー・クシ墓洞穴に到る大規模な鍾乳洞であり、貴重な地域資源であると同時に施設の整備と情報の発信・PRを行うことで観光資源として期待できる。 ・漢那ダム以外は国道からの案内板等が無いいため、案内板の設置が望まれる。
②風景	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい浜や海の景観とともに、農地の向こう側にそびえる漢那岳・ガラマン岳・古知屋岳・久志岳の景観も美しい。 ・海岸線ではブルシと呼ばれる岩が群がっている景観や美しい砂浜など多様な姿を見せる。
③歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・本村は、平坦地が海岸に近く海の幸に恵まれ生活に適しているため、4500年前頃からの遺跡が途切れなく発見されている。これらの遺跡は各区の中心地付近にまとまってあり、昔から現在に至るまで同じ場所で生活が続いてきたことを示しており、生活場所の近くに有形文化財や史跡等が数多く残されていることから、資源の活用がしやすい状況にあるといえる。（グスク・御嶽・神アシャギ・遥拝所・村獅子・カー・遺跡） ・村内には多くのカー（井戸・湧水）があり、かつては生活用水として利用され、現在でも拝所となっている井泉は各集落で管理が行われているなど、地域に密着した資源となっている。 ・宜野座ヌ古島遺跡（大川グシク）、前原遺跡、漢那ウェーヌアタイ遺跡は貴重な遺跡であるだけでなく、歴史探検の資源として期待できる。 ・宜野座村立博物館では上記に示したような歴史文化財関連資料の収集・保管・展示を行っており、宜野座の歴史文化の情報発信拠点として重要である。 ・歴史文化資源の案内板等がほとんど無いいため、設置が望まれる。同時にガイド（案内人）の育成も重要である。



宜野座村内のビーチ



宜野座福地川



漢那ダム



松田鍾乳洞



ガラマン岳



大久保ガー



宜野座ヌ古島遺跡

表 1.1-1 宜野座村の地域資源の特徴・評価 (2/4)

項目	地域資源の特徴・評価
④文化・芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・古くからの集落の松田・宜野座・惣慶・漢那の4区で十五夜あしび、綱引き、エイサー、村芝居、獅子舞、棒術、角力等の伝統芸能・民俗行事が数多く受け継がれている。 ・「宜野座の京太郎」は県指定無形民俗文化財に、「惣慶の十五夜あしび (字惣慶のミジター)」「宜野座の八月あしび (十五夜あしび)」は村指定無形民俗文化財に指定されている。十五夜あしびは、老人から子供、男女総参加で集落を上げて行われる行事であることから、区民の連帯意識を育み、絆を結ぶ重要な伝統行事といえる。 ・これらの伝統芸能や民俗行事は各区を中心に継承されているが、後世まで残していくためには、若年層を対象とした伝統芸能講座の開催・後継者の育成や、地域間の相互交流、地域が主体となった伝統文化継承のための環境づくり等が必要である。 ・地域独自の文化活動としては「ちな陶房 (シーサー作り、雑器・陶製アクセサリー等の販売・体験)」「ぎのぞ焼き 湯劉窯 (陶芸)」「屋良三味線 (三線販売・体験)」「くちや窯 (シーサーの焼き物)」「カニマン工房 (鍛冶屋)」があり、ぎのぞの特産としてPR等積極的な取り組みが求められる。
⑤祭・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・村内では、各地区農村公園を中心にお祭りやイベントが数多く行われており、月によっては毎週何かの行事イベント (スポーツイベントも含む) が開催されている。 ・集客の多いイベントとしては「阪神タイガース・宜野座キャンプ」「宜野座村産業まつり」「漢那ダムまつり」「宜野座村まつり (2年に1回の開催)」「ぎのぞ海まつり」があり、年に1度のイベントであるが、継続的な集客が期待できる。 ・上記のイベント時には村外からも多くの観光客が宜野座村を訪れることになるため、その来訪者に宜野座村をPRする活動を行い、宜野座村をもっと知ってもらい宜野座のイメージアップを進め、再訪してみたいと思わせることが必要である。 ・宜野座村文化センター (がらまんホール) では、音楽会等の各種催し物を定期的で開催しており、地域に密着した施設となっている (アコースティックナイト、大人の音楽会、お話し会、子供読書フェスティバル、村文化祭、ミュージカル、音楽コンサート、かりゆし遊び 等)。 ・国際交流村 (国際交流センター) は現状では利用があまり無く、有効活用が望まれる。 ・未来ぎのぞ駐車場では、毎週土日にフリーマーケットが開催されており、多い時には50~70店舗が出店し3000名以上が来店している。固定客もあり非常に重要な集客施設といえる。
⑥健康・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・村民の健康づくりを進めるための施設として、海洋療法施設を中心とした「かなタラソ沖縄」がある。村民の利用だけでなく観光資源として年間入館者数が村内随一の施設であり、今後も健康づくりだけでなく観光拠点として期待される。



漢那の十五夜アシビ



宜野座の京太郎



くちや窯



阪神タイガースキャンプ



漢那ダムまつり



ぎのぞ海まつり



かなタラソ沖縄

表 1.1-1 宜野座村の地域資源の特徴・評価 (3/4)

項目	地域資源の特徴・評価
⑥健康・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・村ではスポーツと健康を推進しており、村全体から各区開催まで、宜野座ドーム・宜野座村総合運動公園・村営野球場・中央グラウンド・村営体育館・宜野座カントリークラブ等を中心に、年間を通じて数多くのスポーツ大会やレクリエーションイベントが開催されている。今後は村民によるスポーツ活動だけでなく、村外との交流を図っていくことが望まれる。 ・村のスポーツ活動拠点である宜野座ドーム（周辺の体育施設を含む）は、春季はキャンプ（阪神、韓国野球、東京・愛知の大学など）、フットサル、グランドゴルフ、ゲートボールなどに利用されており、村外からの利用が期待できる。 ・スポーツの中でも特に野球とターゲットバードゴルフが盛んであり、ターゲットバードゴルフは県内で最も盛んで、全国大会にも出ている。 ・各区では「区民ウォーキング」「区民イキイキウォーク」「健康ウォーク」等の名称で毎月ウォーキングが開催されるなど、健康への取り組みとしての活動が盛んである。
⑦体験	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業の農漁業を活かした農業体験（宜野座体験学習王国）・収穫体験（イチゴ狩り体験、エコ野菜収穫体験）が行われている。ただし、修学旅行での利用等の滞在型の観光資源としていくためには宿泊施設の確保が必要であり、今後の課題となっている。民泊しての農業体験や漁業体験など、より地域に密着した体験も進めていくことが望まれる。 ・漁業体験やマリンスポーツ等の海に係わる体験については、宜野座村観光推進協議会で現在プログラムを検討中であり、美しい宜野座の海を活かした有効な地域資源として今後に期待される。 ・上記以外にも、地域資源を活かした洞窟洞穴探検・カヌーによるリバーツアーなど、新たな体験プログラムの開発が求められる。 ・産業振興課では滞在型農園（クラインガルテン）を計画している。 ・今後は、各種プログラムの体験インストラクターの育成が重要と考えられる。
⑧特産・食	<ul style="list-style-type: none"> ・本村は早くから農業基盤整備を進めており、「有機の里宜野座村」宣言、エコ農業の推進など、農業が盛んな地域である。 ・県内で初めて茶を栽培したのが漢那である。 ・漁業は、宜野座村の沿岸に広がる豊かな珊瑚礁海域を中心に、人工漁礁を設置してのパヤオ漁やウニ、もずく、海ぶどう、車海老等の有用水産動植物の種苗の生産、放流、育成などの資源維持培養型、いわゆる「つくり育てる」漁業が展開されている。 ・主な農漁産物（未来ぎのぞ、漁村漁民活性化施設等で販売）サトウキビ、じゃがいも、キャベツ、だいこん、ほうれん草、かぼちゃ、トマト、きゅうり、さやいんげん、スイートコーン、スイカ、レタス、ゴーヤ、オクラ、へちま、とうがん、からしな、パイナップル、マンゴー、タンカン、バナナ、ドラゴンフルーツ、茶、洋ラン、キク、切り葉、肉用牛、乳用牛、豚、鶏卵、もずく、海ブドウ、車海老 等



宜野座ドーム



宜野座カントリークラブ



ウォーキング大会



収穫体験



漁業体験



車海老



宜野座の農産物



漁村漁民活性化施設直売所

表 1.1-1 宜野座村の地域資源の特徴・評価 (4/4)

項目	地域資源の特徴・評価
⑧特産・食	<ul style="list-style-type: none"> ・特産加工品（未来ぎのぎで販売） 沖縄じゃがパスタ、宜野座バーガー、ぎのぎジャム、じゃがめん、もずく麺、月桃そば、そばがりがり、いちやがりがり、未来かすてら、アンダギー（じゃがいも・月桃）、もずくのり・未来つくだに、やんばる茶、ピクルス、やんばる牛乳、じゃがもち、乾燥もずく、パインアミノ 等 ・「パインアミノ」はがん予防に効果があるといわれており、村が進めている健康のイメージにつながる商品といえる。 ・「未来ぎのぎ」は新鮮野菜や村の特産品を販売する場所として多くの人が訪れる場所（約 15 万人/年）であり、村外への宜野座村の PR の場所としても重要な施設である。 ・収益性の高い新たな農産物の栽培や魅力的な農産物加工品の開発が期待される。 ・沖縄県の地産地消推進に取り組む店《おきなわ食材の店》に沖縄県より認定されている「炭焼家てんぷす」があるが、宜野座をイメージできる食及び飲食店が少ないため、宜野座の食のイメージ確立・食の魅力創出が求められる。
⑨宿泊	<ul style="list-style-type: none"> ・村内の宿泊施設は「カンナリゾートヴィラ沖縄」「JA 沖縄研修所」以外は民宿・ペンションであり、宿泊できる人数も限られるため、村内で一度に多くの人々の宿泊は出来ない状況である。カンナリゾートヴィラ沖縄は、料金が村内のペンションと比較して高額であり、特定の利用者に利用が限られる。「JA 沖縄研修所」は、平日は研修等で使用され空きが無く、合宿等で利用したくても利用できない状態となっている。今後は、村内スポーツ施設等の利用と合わせて合宿利用できる宿泊施設の確保が課題となっている。 ・ペンションは宜野座漁港近くのサンパークに集中しており、ビーチに近接した魅力的な立地条件にある。 ・村では民泊事業を行っており、民泊の受け入れ可能な民家を募集し、さらに民泊を増やしていくことを考えている。今後は、民泊しての農業体験など、民泊事業の中でのメニューづくりが求められる。
⑩産業	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用機会の創出を目指して「宜野座村 IT オペレーションパーク」を導入し、新しい産業分野を開拓している。 ・「バイオマスタウン構想」によるバイオ液体燃料の実証実験が予定されており、地域産業の活性化と村内雇用機会の増加が期待される。また、農畜産業と連携した農村バイオマスの利活用が望まれる。 ・宜野座の軟水で「おいしい水」は重要な資源であり、新たな産業の材料と考えられる。 ・古民家のカフェ等への利用も、観光資源（産業）として有効と考えられる。



【参考資料：地域別特性】

表 1.1-2 地域別特性

項目	松田地域	宜野座地域	惣慶地域	漢那地域
□位置・地形	本村の東部に位置し、東側を慶武原川、西側を宜野座福地川が注いでいる。地形は北西に古知屋岳がそびえ、海岸に向けて起伏の多い段丘が続く。海岸線には琉球石灰岩が発達している。	本村の中央部に位置し、地域の東側を宜野座福地川が注いでいる。地形は段丘丘陵が北東部の山地から海岸線まで続いている。役場をはじめ公的サービス機能及び業務・商業機能が集積し本村の中心地区を形成している。	本村の中央部に位置する。地形は、段丘丘陵がガラマン岳を頂点とする山地から海岸線まで続いている。	本村の西部に位置し、地域の中央部を漢那福地川が注いでいる。北側と西側が山地で南側に海成沖積土の低平地が発達している。
□自然的特性	慶武原川、宜野座福地川にマングローブ群等の豊かな自然がみられ、後ヌ御嶽一帯に鍾乳洞が発達し、前原にかけて良好な海浜景観が連なる。	宜野座福地川にマングローブ群等の豊かな自然がみられ、漁港西側には良好な自然海浜が延びている。	南の海岸に、良好な自然海浜が延びている。	漢那福地川とその上流部に漢那ダム湖があり、南側海岸に良好な自然海浜が延びている。この海岸域には近年観光リゾート施設の立地もみられる。
□集落	村、平松、前原、兼久、高松、潟原の6つの集落が散在する。	南部の段丘平坦域に立地し、2つの集落のまとまりからなる。集落の北側が変化に富んだ集落景観を形成し南側が基盤目状の集落形態となっている。	山間部から続く大きな尾根の先端丘陵地帯に立地し、住宅地は惣慶にまとまって形成され福山集落が散在している。	漢那集落が低平地にまとまった基盤目状の住宅地を形成し、城原集落がやや起伏のある段丘上に散在する。
□集落周辺	各集落周辺には土地改良により整った農地が広がり、サーバーファームやゴルフ場、観光施設など各種産業基盤及びリゾート・レクリエーション機能が整いつつある。	集落周辺には土地改良により整った農地が広がる。今後は、国道329号宜野座改良と併せた中心地区の整備が求められている。	集落周辺には土地改良により整った農地が広がる。今後、福山で国道329号宜野座改良と併せた中心地区の拡充整備が求められている。	集落周辺は土地改良により整った農地が広がり、城原は段丘上の森林に閉まれた農地が広がる。レクリエーション用地は、漢那ビーチをはじめ漢那ダム湖畔公園・未来ぎのぞ、かんなタラソ沖縄、民間宿泊施設等が整備され、リゾート・レクリエーション機能が整いつつある。
□利用計画	<ul style="list-style-type: none"> 農用地は既存優良農地の活用を図る。 地先海面における水産動植物の保護培養及び漁場環境並びに河川や海浜域の環境の改善を図る。 慶武原川の自然環境を保全しつつ、宜野座福地川で生き物が生息できる環境を再構築し、散策やレクリエーション、学習空間等として活用できるよう親水性のある河川空間の形成を図る。 カルスト地形下の鍾乳洞については、学習空間等としての活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 農用地は既存優良農地の活用を図る。 イノーにおける水産動植物の繁殖保護及びモズク養殖等の水産振興のための漁場環境、並びに宜野座福地川や海浜域を活用したリゾート・レクリエーション環境を保全する。 集落内及び周辺域の史跡、湧水等を保全・活用した、学習・交流空間の形成を促進するとともに、漁港周辺域における交流広場の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 農用地は既存優良農地の活用を図る。 イノーにおける水産動植物の繁殖保護及びモズク養殖等の水産振興のための漁場環境、並びに宜野座福地川や海浜域を活用したリゾート・レクリエーション環境を保全する。 海岸域で村民を主体としつつ、県内外の来訪者も利用できる海浜域の形成を図る。レクリエーション用地については、海岸域へ立地誘導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 農用地は既存優良農地の活用を図る。 イノーにおける水産動植物の繁殖保護及びモズク養殖等の水産振興のための漁場環境、並びに漢那福地川や海浜域を活用したリゾート・レクリエーション環境を保全する。 漢那福地川河口域の堆砂を排砂する等、自然環境の回復を図るとともに、河畔は散策やレクリエーション、学習空間等として活用できるよう親水性のある河川空間の形成を図る。 海岸域でかんなタラソ沖縄の拡充及びリゾート施設の整備を促進するとともに、地域南西部へ新たな集積立地を誘導する。

出典「第3次宜野座村国土利用計画」(H20.3)

1.2 地域資源に係る課題

本村の地域資源に係る現状と課題を、「SWOT分析」（企業等のマーケティング手法）により再整理し、今後の方向性について検討した。

【SWOT分析とは】

- SWOT分析は、外部環境（機会・脅威）の変化に対応し、自らの内部要因（強み・弱み）を分析しながら、自らの地域の成長と発展のために自らのミッション（使命）・ビジョン（将来像）・戦略課題を導く方法論で、新たな戦略構築に用いるマーケティング分析手法である。
- SWOTとは、強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)の頭文字を取ったものである。主体的に解決できるSとWに対し、OとTは周囲環境として受け入れざるを得ない要素である。

内部要因 ・農地、担い手 ・マーケティング力 等	S 強み	W 弱み
外部要因 ・社会経済環境 ・都市住民ニーズ 等	O 機会	T 脅威

◇地域資源の活用から見た本村の現状と課題

本村の地域資源に係る現状と課題について、「SWOT分析」により以下のとおり整理した。
外部要因の実情については、「6.1沖縄県・宜野座村の観光実態」参照。

表 1.2-1 地域資源の活用からのSWOT分析結果

内部 要因	<p>【強み：S】</p> <p>○地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然・遺跡等の地域資源が豊富 ・ 阪神のキャンプ地としてファンには有名 ・ タラソテラピー単独施設は県内で唯一 ・ 防風林に守られた優良農地が広大 ・ かんな湖はカヌー利用が可能 ・ 人気が高いそば店・ペンションがある ・ 「てんぷす・宜野座」宣言(沖縄本島の真ん中) ・ 県内初「有機の里」宣言 ・ 健康村宣言 <p>○地域資源の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空港から車で1時間と近い(高速IC有り) ・ 各区で健康ウォーキングを実施 ・ 6つの行政区では行政委員会が構成され、地域づくり等の活動が盛ん 	<p>【弱み：W】</p> <p>○地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観資源が少ない ・ 山地側の地域資源は軍用地で使用不可 ・ 地域資源間の連携、近隣市町村との広域連携が少ない ・ 滞在型の宿泊施設が少ない ・ 「宜野座」の知名度が低い <p>○地域資源の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源の案内板や情報発信が不十分 ・ 村一体の地域資源活用体制が不十分 ・ 宜野座ならではの土産物・食が少ない ・ 修学旅行生が少ない
	<p>【機会：O】</p> <p>○地域資源の利用者（沖縄への来訪者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県への観光客は最近鈍化の傾向にあるが、年間約600万人と多い ・ 修学旅行は最近鈍化の傾向にあるが、年間44万人と多い ・ レンタカー利用の観光客は増加傾向(団体周遊観光からフリープラン個人旅行の増大) ・ 観光客1人当たり消費金額は微増傾向(土産・買物、食事の割合が高い) ・ 旅行者が最も多い「海洋博公園(水族館)」への通過点に位置 <p>○国民のニーズ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食・体験へのニーズの高まり ・ 特徴のある物産品へのニーズの高まり ・ インターネット利用者の増加(パソコン・スマートフォンの普及増) 	<p>【脅威：T】</p> <p>○地域資源の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄自動車道による通過者が多い ・ 高速道路の料金の有無により来訪条件が異なる ・ 観光客など来訪者のニーズの変化 <p>○周辺市町村等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺市町村の観光振興・修学旅行誘致等の取組みが積極的で競合状態(体験交流型の取組増大) ・ 市町村・地域競争の激化による価格低下
外部 要因	<p>【機会：O】</p> <p>○地域資源の利用者（沖縄への来訪者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県への観光客は最近鈍化の傾向にあるが、年間約600万人と多い ・ 修学旅行は最近鈍化の傾向にあるが、年間44万人と多い ・ レンタカー利用の観光客は増加傾向(団体周遊観光からフリープラン個人旅行の増大) ・ 観光客1人当たり消費金額は微増傾向(土産・買物、食事の割合が高い) ・ 旅行者が最も多い「海洋博公園(水族館)」への通過点に位置 <p>○国民のニーズ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食・体験へのニーズの高まり ・ 特徴のある物産品へのニーズの高まり ・ インターネット利用者の増加(パソコン・スマートフォンの普及増) 	<p>【脅威：T】</p> <p>○地域資源の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄自動車道による通過者が多い ・ 高速道路の料金の有無により来訪条件が異なる ・ 観光客など来訪者のニーズの変化 <p>○周辺市町村等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺市町村の観光振興・修学旅行誘致等の取組みが積極的で競合状態(体験交流型の取組増大) ・ 市町村・地域競争の激化による価格低下